

東洋史

授業科目名	授業題目	単位	担当教員氏名	開講 セメスター
東洋古代中世史特論Ⅰ	秦史の諸問題	2	渡邊 英幸	前期 金曜2限
東洋古代中世史特論Ⅱ	古代中国王朝と周辺諸 国・諸民族	2	渡邊 英幸	後期 金曜2限
東洋古代中世史特論Ⅲ	魏晋南朝貴族制の諸問題	2	川合 安	前期 金曜4限
東洋近世史特論Ⅱ	北朝隋唐貴族制の諸問題	2	川合 安	後期 金曜4限
東洋史学研究演習Ⅰ	明清官僚制度研究Ⅰ	2	大野 晃嗣	前期 水曜5限
東洋史学研究演習Ⅱ	明清官僚制度研究Ⅱ	2	大野 晃嗣	後期 水曜5限
東洋史学研究演習Ⅲ	戦国秦漢時代簡牘資料研 究	2	渡邊 英幸	前期 金曜5限
東洋史学研究演習Ⅳ	戦国秦漢簡牘資料研究Ⅱ	2	渡邊 英幸	後期 金曜5限

科目名：東洋古代中世史特論 I

曜日・講時：金曜 2 限

開講学期：前期 **単位数：**2

担当教員：渡邊 英幸

コード：LM15203, **科目ナンバリング：**LGH-HIS601J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：秦史の諸問題

2・授業の目的と概要：秦始皇帝による中国統一は、東アジア史においてきわめて重要な位置を占める。だが統一時代は、実のところ秦の長期にわたる歴史のごく一部に過ぎず、またその実態も、歴史資料の不足により、これまで不明な点が多かった。ところが近年、新出土資料が増加したことにより、研究の進展が著しく、多くの事実が明らかにされつつある。この授業では、おもに領域拡大と統一、そして滅亡にいたる秦の歴史を通覧し、いくつかの重要な論点を取り上げ、研究の到達点をあきらかにすることを目的とする。

3. 学習の到達目標：受講生は講義で示した基礎的な知識を身につけるとともに、論争点を把握し、自身の理解や解釈を提示できることを目標とする。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

第1回：(導入) 秦国君の系譜／秦の歴史の画期／取り扱う史料

第2回：秦の起源と建国

第3回：春秋時代の東方新出とその挫折

第4回：秦孝公の登場と商君変法

第5回：商君変法の虚実

第6回：恵文王から昭襄王へ

第7回：昭襄王の台頭と長平の戦い

第8回：ロウアイの乱前後

第9回：睡虎地秦簡とその時代

第10回：「皇帝」の出現

第11回：里耶秦簡と秦の郡県制

第12回：岳麓秦簡『為獄等状四種』にみる秦の社会

第13回：統一と「新地」の支配 (1)

第14回：統一と「新地」の支配 (2)

第15回：秦の滅亡

5. 成績評価方法：コメントシートと平常点 (10%) および最終レポート (90%) を総合して評価する。

6. 教科書および参考書：教科書は特に指定しない。資料を毎回配布する。

7. 授業時間外学習：配布した資料を熟読し、紹介した参考文献を積極的に参照すること。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

科目名：東洋古代中世史特論Ⅱ

曜日・講時：金曜 2 限

開講学期：後期 単位数：2

担当教員：渡邊 英幸

コード：LM25203, 科目ナンバリング：LGH-HIS602J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：古代中国王朝と周辺諸国・諸民族

2・授業の目的と概要：中国王朝は、東アジアの周辺諸国・諸民族との間で「冊封」や「朝貢」といった特殊な秩序を形成し、また国内外に住む多様な民族を統治してきた。この授業の前半では前近代の中国王朝の国際秩序に関する研究史を概観する。後半では秦漢時代に焦点を置き、中国王朝が周辺諸国・諸民族との間で形成した関係を歴史資料に即して具体的に考察する。

3. 学習の到達目標：・前近代東アジアの国際秩序に関する基礎的な知識を身につけ、説明できるようになる。
・戦国から秦漢時代の中国王朝が周辺諸国・諸民族との間で形成した関係について、歴史資料に即した形で理解する。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

- 第1回：(序論) 中国王朝の対外関係と華夷思想, 冊封と朝貢・互市
- 第2回：冊封と東アジア (1): 「冊封体制論」の提唱
- 第3回：冊封と東アジア (2): 「冊封体制論」の展開
- 第4回：冊封と東アジア (3): 「冊封体制論」の批判
- 第5回：朝貢・互市と天朝体制論
- 第6回：「冊封」と高句麗をめぐる歴史論争
- 第7回：秦漢時代の「内臣・外臣」構造論
- 第8回：「内臣・外臣」論への批判と秦代への遡及
- 第9回：志賀島の「金印」をめぐる
- 第10回：漢代国家構造論の現在
- 第11回：睡虎地秦簡からみた秦の秩序 (1)
- 第12回：睡虎地秦簡からみた秦の秩序 (2)
- 第13回：戦国・秦漢時代の他国民・異民族の同化と編入
- 第14回：漢初の諸侯王と「内／外」秩序
- 第15回：漢初の異民族統治：近年出土の簡牘史料から

5. 成績評価方法：コメントシートと平常点 (10%) および最終レポート (90%) を総合して評価する。

6. 教科書および参考書：教科書は特に指定しない。参考文献は適宜紹介する。

7. 授業時間外学習：配布した資料を熟読し、紹介した参考文献を積極的に参照すること。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

科目名：東洋古代中世史特論Ⅲ

曜日・講時：金曜 4 限

開講学期：前期 単位数：2

担当教員：川合 安

コード：LM15403, 科目ナンバリング：LGH-HIS603J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：魏晋南朝貴族制の諸問題

2・授業の目的と概要：魏晋南朝時代（220～589）は、貴族が政治・社会を主導する体制（貴族制）の時代として知られる。講義では、この時代の貴族あるいは貴族制について分析し、その具体相を浮かび上がらせることを試みる。この試みを通じて中国史における魏晋南朝時代の特質について理解を深めることを目的とする。

3. 学習の到達目標：魏晋南朝貴族制の具体相とその特質を理解し、興味をもった論点について論じることができるようになる。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1、 ガイダンス
- 2、 後漢時代の貴族
- 3、 九品中正制の創設
- 4、 州大中正の設置
- 5、 西晋の貴族制
- 6、 東晋貴族制の成立
- 7、 東晋中期の貴族制
- 8、 東晋貴族制の動揺
- 9、 宋・齊時代の貴族制
- 10、 宋・齊時代の名門貴族と新興貴族
- 11、 南朝の九品中正制
 - 12、 梁・武帝の改革（十八班制）
 - 13、 梁・武帝の改革（試經制）
 - 14、 陳代の新傾向
 - 15、 総括

5. 成績評価方法：毎回の課題による。

6. 教科書および参考書：教科書は毎回資料を配布する。参考書は講義の中で紹介する。

7. 授業時間外学習：毎回の課題を作成する。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practical business

9. その他：

科目名：東洋近世史特論Ⅱ

曜日・講時：金曜 4 限

開講学期：後期 **単位数：**2

担当教員：川合 安

コード：LM25404, **科目ナンバリング：**LGH-HIS605J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：北朝隋唐貴族制の諸問題

2・授業の目的と概要：北朝隋唐時代（439～907）における貴族制は、魏晉南朝の貴族制と異なり、国家権力主導の下に貴族の格付けが行われ、官僚制に組み込まれる傾向がある。講義では、この時代の貴族制あるいは貴族について分析し、その具体相を浮かび上がらせることを試みる。この試みを通じて、中国史における北朝隋唐時代の特質について理解を深めることを目的とする。

3. 学習の到達目標：北朝隋唐の貴族制の具体相とその特質を理解し、興味をもった論点について論じることができるようになる。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1、ガイダンス
- 2、五胡十六国時代の貴族
- 3、北魏前期の貴族
- 4、北魏・孝文帝の貴族制導入（官制改革）
- 5、北魏・孝文帝の貴族制導入（姓族分定）
- 6、北魏の九品中正制
- 7、北魏後期の貴族制への反発
- 8、東魏・北齊の九品中正制
- 9、西魏・北周の新貴族制
- 10、隋の官制改革
- 11、隋の貴族
- 12、唐の氏族志編纂
- 13、唐の貴族と科挙
- 14、牛・李の党争
- 15、総括

5. 成績評価方法：毎回の課題による。

6. 教科書および参考書：教科書は毎回資料を配布する。参考書は講義の中で紹介する。

7. 授業時間外学習：授業時間外学習：毎回の課題を作成する。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:“○”Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

科目名：東洋史学研究演習 I

曜日・講時：水曜 5 限

開講学期：前期 **単位数：**2

担当教員：大野 晃嗣

コード：LM13507, **科目ナンバリング：**LGH-HIS608J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：明清官僚制度研究 I

2・授業の目的と概要：明清時代の漢文史料を精読することを通して、中国近世の政治制度、官僚制度に関する基礎知識を習得し、同時に自分で課題探究をするために必須となる文書読解の訓練を行う。

3. 学習の到達目標：中国明清時代の一次史料読解を通じて、政治制度、官僚制度研究に必須となる公文書の基本形式に慣れると同時に、当時の官僚制と社会について分析し、研究を遂行する能力を涵養する。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

毎回全員が史料の訓読・日本語訳を準備し、発表を行う。

1. ガイダンスー史料の背景と工具書ー
2. 明清官僚制度研究 Iー (1)
3. 明清官僚制度研究 Iー (2)
4. 明清官僚制度研究 Iー (3)
5. 明清官僚制度研究 Iー (4)
6. 明清官僚制度研究 Iー (5)
7. 明清官僚制度研究 Iー (6)
8. 明清官僚制度研究 Iー (7)
9. 明清官僚制度研究 Iー (8)
10. 明清官僚制度研究 Iー (9)
11. 明清官僚制度研究 Iー (10)
12. 明清官僚制度研究 Iー (11)
13. 明清官僚制度研究 Iー (12)
14. 明清官僚制度研究 Iー (13)
15. 明清官僚制度研究 Iー (14) 及びまとめ

5. 成績評価方法：毎回の発表内容。

6. 教科書および参考書：プリント配布。参考文献は授業中に随時指示する。

7. 授業時間外学習：毎回、テキストを日本語訳し、内容について調べて授業にのぞむ必要がある。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:“○”Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

科目名：東洋史学研究演習Ⅱ

曜日・講時：水曜 5 限

開講学期：後期 **単位数：**2

担当教員：大野 晃嗣

コード：LM23507, **科目ナンバリング：**LGH-HIS609J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：明清官僚制度研究Ⅱ

2・授業の目的と概要：明清時代の漢文史料を精読することを通して、中国近世の政治制度、官僚制度に関する基礎知識を習得し、同時に自分で課題探究をするために必須となる文書読解の訓練を行う。

3. 学習の到達目標：中国明清時代の一次史料読解を通じて、政治制度、官僚制度研究に必須となる公文書の基本形式に慣れると同時に、当時の官僚制と社会について分析し、研究を遂行する能力を涵養する。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

毎回全員が史料の訓読・日本語訳を準備し、発表を行う。

1. ガイダンスー史料の背景と工具書ー
2. 明清官僚制度研究Ⅱー (1)
3. 明清官僚制度研究Ⅱー (2)
4. 明清官僚制度研究Ⅱー (3)
5. 明清官僚制度研究Ⅱー (4)
6. 明清官僚制度研究Ⅱー (5)
7. 明清官僚制度研究Ⅱー (6)
8. 明清官僚制度研究Ⅱー (7)
9. 明清官僚制度研究Ⅱー (8)
10. 明清官僚制度研究Ⅱー (9)
11. 明清官僚制度研究Ⅱー (10)
12. 明清官僚制度研究Ⅱー (11)
13. 明清官僚制度研究Ⅱー (12)
14. 明清官僚制度研究Ⅱー (13)
15. 明清官僚制度研究Ⅱー (14) 及びまとめ

5. 成績評価方法：毎回の発表内容。

6. 教科書および参考書：プリント配布。参考文献は授業中に随時指示する。

7. 授業時間外学習：毎回、テキストを日本語訳し、内容について調べて授業にのぞむ必要がある。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:“○”Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

科目名：東洋史学研究演習Ⅲ

曜日・講時：金曜 5 限

開講学期：前期 単位数：2

担当教員：渡邊 英幸

コード：LM15502, 科目ナンバリング：LGH-HIS610J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：戦国秦漢時代簡牘資料研究

2・授業の目的と概要：戦国秦の同時代史料であり、現在の中国古代史研究の基盤となった出土史料である雲夢睡虎地秦簡を会読する。中国・日本・欧米のこれまでの研究成果を把握し、簡牘史料の解読の基礎を習得するとともに、その後に出土したほかの史料の知見を踏まえ、従来の見解の見直しを行う。釈文・訓読を確定し、訳注稿として提出する。

3. 学習の到達目標：先行研究の知見を踏まえ、簡牘史料を的確に読解する力を身につけることを目標とする。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

第1回：ガイダンス。資料の解説／工具書・参考書の紹介

第2回：秦漢時代の裁判と司法手続き

第3回：「封診式」講読 (11) 「争牛」

第4回：「封診式」講読 (12) 「羣盜」

第5回：「封診式」講読 (13) 「奪首」

第6回：「封診式」講読 (14) 「□□」

第7回：「封診式」講読 (15) 「告臣」

第8回：「封診式」講読 (16) 「黥妾」

第9回：「封診式」講読 (17) 「遷子」

第10回：「封診式」講読 (18) 「告子」

第11回：「封診式」講読 (19) 「癘」

第12回：「封診式」講読 (20) 「賊死」1

第13回：「封診式」講読 (20) 「賊死」2

第14回：「封診式」講読 (21) 「經死」1

第15回：「封診式」講読 (21) 「經死」2

5. 成績評価方法：担当した課題、毎回の討論への参加、および最終課題の成績によって評価する。

6. 教科書および参考書：教科書：講読する箇所のコピーを配布する。

参考書：授業中に紹介・配布する。

7. 授業時間外学習：担当者は十分に予習して訳注稿を作成する。討論では全員に発言を求めると、担当者以外も予習のういで出席すること。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

科目名：東洋史学研究演習IV

曜日・講時：金曜 5 限

開講学期：後期 **単位数：**2

担当教員：渡邊 英幸

コード：LM25503, **科目ナンバリング：**LGH-HIS611J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：戦国秦漢簡牘資料研究 II

2・授業の目的と概要：前漢の同時代史料である走馬楼西漢簡牘を会読する。中国・日本・欧米のこれまでの研究成果を把握し、簡牘史料の解読の基礎を習得するとともに、その後に出土したほかの史料の知見を踏まえ、従来の見解の見直しを行う。積文・訓読を確定し、訳注稿として提出する。

3. 学習の到達目標：先行研究の知見を踏まえ、簡牘史料を的確に読解する力を身につけることを目標とする。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

第1回：ガイダンス：走馬楼西漢簡牘の説明／参照史料・工具書の紹介

第2回：秦漢時代の裁判資料と司法手続き

第3回：案例二の講読 (1)

第4回：案例二の講読 (2)

第5回：案例三の講読 (1)

第6回：案例三の講読 (2)

第7回：案例三の講読 (3)

第8回：案例三の講読 (4)

第9回：案例四の講読 (1)

第10回：案例四の講読 (2)

第11回：案例四の講読 (3)

第12回：案例四の講読 (4)

第13回：案例四の講読 (5)

第14回：案例四の講読 (6)

第15回：講義のまとめ

5. 成績評価方法：担当した課題、毎回の討論への参加、および最終課題の成績によって評価する。

6. 教科書および参考書：教科書：講読する箇所のコピーを配布する。

参考書：授業中に紹介・配布する。

7. 授業時間外学習：担当者は十分に予習して訳注稿を作成する。討論では全員に発言を求めるので、担当者以外も予習のういで出席すること。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：